

「がんばれ日本」「がんばろう日本国」…その2

市川治療室 No.274.2011.05

今回の地震後、その映像を見た海外の方（アメリカ）から下記の様な反応がありました。

「なにがあって日本文化はこんなに一致団結してるんだらう。
全員がやってはいけないことを瞬く間に理解して、そういうことには近寄らない。
やるべきことを認識して、一番早くて良い方法は何かを追求する。…しかも、静かに」

上記の文章は先月のお知らせの最後に載せた文章です。

私はこの文章内容に似た体験をしたことがあります。

10年ほど前の5月下旬、名古屋方面から東京に向って東名高速道路を100km/h位の速度で走っていました。

日曜日だったので交通量は多めでしたが、渋滞などなく流れはスムーズでした。

静岡県の御殿場の山間部を過ぎたころ、急に「霧」が発生してきました。あっという間に前方がほとんど視認できない状態になってしまいました。

10M先も全く見通せない状態になりました。前の車のテールランプ（車後のランプ）が確認できないくらいの視界不良です。当然、前後左右の走行車両も全く視認できません。

交通量が多いことは分かっていたから、急な車線変更や走行停止などをすると大事故を起こす可能性があるので道路上の車線を確認しながら車線に沿って直進・カーブなどの走行をしました。

前方の赤いランプが突然に点灯（前の車がブレーキかけたら点灯するので）するかもしれないと思いつつ、目の前の道路車線に沿って走行するのは非常に怖いものでした。

その状況下で私は以下の様なことを考えて運転したことをはっきりと覚えています。

「前方が確認できないので車線に沿って走行すること」
「走行停止すると後から衝突される可能性が高いので停止はできないこと」
「速度を減速することは後ろからの衝突の可能性を高めること」
「車線の変更や路肩への停止も危険であること（路肩も視認できない状態だった）」

視界がほとんどない状態での走行は2～3分という短時間ではなくおそらく10分弱だったと思いますが、非常に恐怖を感じた時間でした。

急に発生した霧は、突然に消えて視界は急に戻りました。その時に「助かった」という思いを持ったことは今でも忘れられません。

周りでは先ほどまで霧で視界がほとんど無かった事が無かったような雰囲気でごく普通に多くの車が東京方面へ100km/hくらいの速度で走り続けていました。

「助かった」という思いの次に感じたのは「素晴らしい」という思いです。

見ず知らずの人達がおそらく同じ思いで高速走行をしていたこと。
そのため交通事故が起こらなかったこと。
しかも当たり前のように、また何もなかったようにその後の走行したこと。

この霧中の走行をその後もう一度御殿場付近走行中に体験しました。

…梅雨時期の御殿場走行は要注意です…

なにはともあれ、世界一流の技術と日本文化が今回の災害からの復興の可能性を
高めてくれるはず。 …「がんばれ日本」「がんばろう日本国」